平成20年度　施策評価シート

◆総合計画における位置付け等

平成20年6月　日記入

基本目標	躍動し　魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	31410
政策名（章）	第１章　立地特性を生かした産業の振興をめざします	評価担当局	環境経済局
基本施策名（節名）	第４節　商業・サービス業の振興	施策所管課	商業サービス業課
施　策　名	特色ある商業地の形成	課長名	沖津　茂寿

１　施策の目的・概要（目的はわかりやすく記入）

豊かな市民生活の実現に向け、多様な消費者ニーズに対応できる特色ある商業地の形成を図るため、商業・サービス業をはじめ、業務、文化、交流等の広域的な都市機能を備え、まちづくりと一体となった中心商業地（橋本駅・相模原駅・相模大野駅周辺地区）の形成を進める。　また、それぞれの地域特性を生かした魅力ある商業地として、地区中心商業地（淵野辺・上溝・小田急相模原・東林間・古淵地区）、近隣商業地（若松・相武台・南橋本・相原二本松地区）の形成も進める。

各地区では、「商業地づくり」のための基本構想・基本計画・街区別計画等を策定し、道路のモール化、街路灯の整備をはじめとする商業環境整備や再開発等による商業施設の誘導など、行政と商業者や地域住民が一体となったまちづくりを目指している。

２　事業費・人員

（単位：千円）

年度	平成17年度（決算）	平成19年度（決算）	増減の主な理由
事業費	28,068	30,450	事業の入り繰りに伴う増減のため、記載不要。
人件費	49,427		
市民一人あたりの事業費（単位：円）	42	43	
合計	77,495	30,450	

＊人件費は、職員一人あたり　H17：805万円、H19：805万円として算定。人口は、66.7万人（H18.4.1現在）、70.6万人（H20.4.1現在）とした。

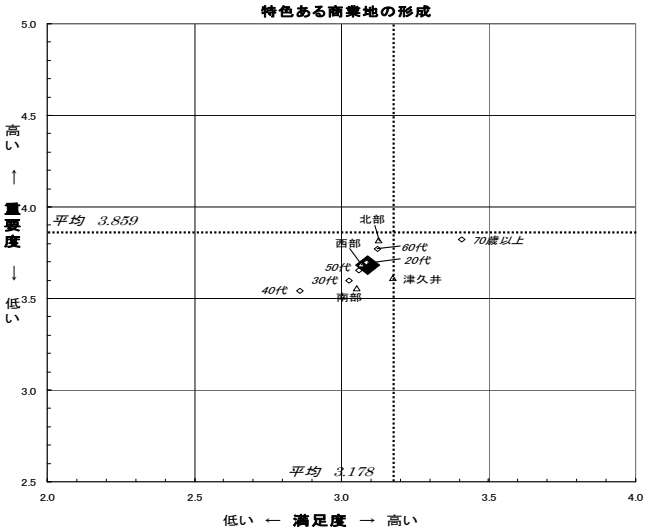
３　成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	目標値の考え方（根拠）
指標１	壁面後退により確保された歩行者空間の長さ（地区計画やまちづくり協定に基づき、建物建築時に壁面後退を行い民地を歩行者空間として活用している。）	確保された歩行者空間の総延長距離	近年の平均値である73m増を基準として、毎年75m増（0.5%増）の歩行者空間確保を目標として設定した。（計画総延長約15,000m）
指標２	購買力指数	（相模原市の年間販売額/神奈川県の年間販売額）/（相模原市の人口/神奈川県の人口）	１０年後の購買力指数1.00を目標に、順次設定したもの。
指標３	平日の通行量（歩行者、自転車、バイク、スクーター）	橋本、相模原（西門、中央地区を含む）、相模大野、淵野辺、上溝、小田急相模原、東林間、古淵、南橋本、相武台前の各駅周辺及び相原二本松周辺、若松周辺の通行量	平成１５年度と平成１９年度の人口比較では、２%旧相模原市の人口が増加（年：0.5%増）しており、今後数年も本市の人口は逓増傾向にあることから毎年０．５%の通行量増加を目標とした。
指標４			
指標５			

	基準年	基準値	H19		H20		H21		H22	
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
指標１（単位：m）	H17	6,431.0	6,581.0	6,452	6,656		6,731.0		6,806	
事業費/人員										
指標２（単位：）	H17	0.92	0.94	0.90	0.95		0.96		0.97	
事業費/人員										
指標３（単位：）	H15	391,720	399,554	339,620	401,552		403,560		405,577	
事業費/人員										
指標４（単位：人）										
事業費/人員										
指標５（単位：）										
事業費/人員										

4　市民満足度調査結果（平成20年度実施分）

〇この施策の満足度は3.089で121施策の中で84番目。
〇重要度は3.680で88番目である。
〇改善要望度は-0.0640で75番目である。
〇年齢別にみると、満足度は70歳以上で最も高く、40代で最も低くなっている。重要度は70歳以上で最も高く、40代で最も低くなっている。
〇地区別にみると、満足度は津久井で最も高く、南部で最も低くなっている。重要度は北部で最も高く、南部で最も低くなっている。



5　1次評価（2つの視点から評価を行う）

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	H18評価点	前回（H18）評価結果との比較分析
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4 (2) 1	4 (2) 1	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4 2 (1)	4 2 (1)	
合計		3	評価結果に基づく区分（2項目の合計点数による） A（6点以上）　B（5点・4点）　C（3点以下）	1次評価 C

＊Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6　課題と解決策（現状または、評価結果から）

課題	①市内の商業地では、街路灯設置などのハード整備は概ね完了し、快適な歩行者空間、買物空間が確保され、買物客の利便性が向上した。しかしながら、購買力指数の低下や通行量の減少など、商業地の活性化には至っておらず、本市の商業地は依然として厳しい状況となっている。②中心商業地（中心市街地）においては、特色のあるまちを形成するために必要な業務系・サービス業系企業が少ないため、顧客となりうる昼間人口の減少を招いている。
解決策	①ソフト事業に対する支援を中心とした新たな商業振興方策を策定し、商業地の活性化に努める。 ②本市商業サービス業の活性化に向け、中心商業地に業務系・サービス業系企業を誘致し、集積を図ることで昼間人口、就業人口を増やし、集客性の高い都市拠点として中心商業地の再生を目指す。

7　2次評価及び意見（1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入）

目的・指標と照らして適切な構成事務事業を検討する必要がある	2次評価 C

＊Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8　3次評価及び意見（評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入）

解決策があまりにも市民感覚とずれている。施策への投入金額に見合った解決策を示すこと。	3次評価 C

＊Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

特色ある商業地の形成

コード	31410

構成事務事業一覧

単位：千円

事務事業担当課	構成事務事業	H19決算見込（事業費）	H20予算（事業費）	H21見込額（事業費）	事業効果の高い指標番号	前回の優先順位	H17人員（人）	H17決算額（事業費）	H17合計（人件費含む）
商業サービス業課	商業地形成事業補助金	18,436	4,009	4,009	1、3	1	4.00	8,495	40,695
~~商業サービス業課~~	~~買物公園道路維持管理費~~	－	－	－	－		0.02	3,773	3,934
~~商業サービス業課~~	~~西門地区商業地再生事業~~	~~5,858~~	~~0~~	－	－	2	2.00	2,604	18,704
商業サービス業課	~~中心市街地活性化事務費~~ 中心市街地活性化推進事業	2,110	12,880	12,880	2、3	3	0.10	10	815
商業サービス業課	商業地形成事業融資預託金	3,241	1,869	615			0.01	6,593	6,674
商業サービス業課	商業地形成事業事務費	805	221	221	1		0.01	6,593	6,674
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
		30,450	18,979	17,725			6.14	28,068	77,495